

新美術館のコンセプトに関する委員会意見の整理

◇…第3回委員会以降の意見

○…第3回委員会までの意見

◎ランドスケープ・ミュージアム ～国宝善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館～

周辺との一体化

- ◇信州の自然美とアートが混在し、県民や外国人も含めた観光者が信州らしさを感じることができる空間
- ◇城山公園周辺及び善光寺東庭園を含めた連続性のある美術館
- ◇善光寺、城山公園と一体となった魅力的文化的コンプレックスを構成 ◇信州つながるアート(長野県の豊かな自然、長野県の文化とアート)
- ◇東山魁夷館とのシナジー、融合 ◇東山魁夷氏および谷口吉生氏の精神を継承する
- ◇城山公園、善光寺と連携して、美術館を取り巻く自然環境も含めて美術館を建設する。自然の美しい長野県をアピールする環境を作るとよい
- ◇新美術館は、より善光寺に近い方が集客に適すると思うので、東庭園に近い美術館の想定設置エリアは、場所としてふさわしい
- ◇善光寺とともに発展し、持続してきた山岳宗教都市にある美術館として、善光寺の営み(開放性、寛容性、庶民性)と連動した営みとする
- ◇庭を含めた敷地全体にアートがあふれる場所 ◇周辺一帯との回遊性を考える
- ◇美術館の建物と周辺整備は、鑑賞する人(来館者)、美術館で活動する人、作品の保管と展示を優先で
- 立地条件がよい美術館なので、単なる立て直しではなく、エリアとしての見直しが必要
- 善光寺と美術館周辺一帯が文教的な地区になればよい ○善光寺から美術館に来る連続性、回遊性を考えていかなければいけない
- 回遊性は、長野市のまちづくりから始まる。長野市と一緒に総合的な都市計画と主体的な美術を支えるプログラムを構築してほしい
- どこから見ても山が見えるように、山を活かしながら建物を造ったら、人が呼べるのではないか
- 公園の魅力や集客力は場所の力が非常に重要。公園との一体化でここまで徹底してやった例はないというのをぜひやってほしい
- 公園の噴水は、長野市の水道事業開始を記念して作られたもの。地元からは、何らかの形で残してもらいたいとの要望がある
- 和風の善光寺東庭園から新美術館に入った時、全く違うコンセプトのものが現れることに観光者は違和感を覚えるのか、それとも新しい長野らしさの展開を感じられるのか、観光者にどういうイメージを持ってもらえるのかも議論に加えたい
- 公園そのものもアート。信濃美術館の周りもそのような場に生まれ変わると大変意義がある
- 建物は公園との一体性を含めて魅力的なものにするべき
- 長野ならではの自然とマッチした、冬に雪が積もったときの景観の素晴らしさや、ユニークさ、そういう独特の魅力ある外観がよい
- 建物だけではなく修景まで考えていきたい。善光寺からこの色はもらってきたと分かるような使い方を建物の外観にしたいのではないか
- 東山魁夷館が善光寺本堂の須弥壇のように奥にあり、そこから包み込むような形で、より機能的で現代的な信州らしい美術館を、使う人の意見を取り入れて作ったらどうか

地域全体が美術館

- ◇街全体を美術街道とし、アート作品を展開する ◇信州つながるアート(門前町長野と善光寺と新美術館)
- ◇長野市の野外彫刻の画面紹介(市内周遊) ○野外彫刻は、長野市と連携して、県立美術館の周りにどんどん置いてほしい
- ◇美術館の中だけが美術館ではなく、そこへ来るまでの間に気持ちの高まりがあるような連続感のある空間をつくる。鑑賞後は余韻にひたりながら歩ける道がある美術館
- 長野駅から善光寺間をアートが繋ぐ位の柔軟な発想で美術館にだどり着いてもらうとか、発想自体をコンテンポラリーアートにしていくほうが有効ではないか
- 美術館がぼつんとあるのではなく、町中にもアートが広がると素晴らしい。進化形の中で考えれば、将来的なプランの余地があってもよい
- レジデンスで考えれば、長野駅から善光寺、美術館の動線の中の空き物件で展開できると広がりがある。観光用、県民用の切り分けを結び展開が可能
- 箱ものをつくる時代ではない、地域全体を美術館とする場づくりという意見は真摯に受け止めるべき

地域の賑わい創出

- ◇善光寺のお膝下としての立地を生かし、寺町の賑わいを創り出す庭の活用(パフォーマンスアート、舞台、定期市など)
- ◇善光寺周辺を巻き込んだ賑わい ◇豊かな自然環境を活かした野外イベントの開催

誰でも気軽に利用

- ◇県民にとって自慢の美術館、まちに馴染んだ美術館となり、県民が親しみを持って利用できるようになれば、美術館としての価値が高まる
- ◇気軽に足を運べ、何度でも行ってみたくなる美術館 ◇誰もが親しみをもてる集える美術館 ◇県民が気軽に立ち寄れる、開かれた空間
- ◇世代を越えて皆が楽しめる場所 ◇愛される場所、愛される建物に。それは、親しみやすさかもしれない
- ◇クオリティーが高く、かつ地元(子ども～老人まで)が気軽に楽しめるという両面性を徹底的に追求するもの
- ◇あらゆる年齢層の県民に開かれた美術館であること。特に、美術館離れしている青少年や若者層も気軽に入れるような雰囲気のある建物であることが望ましい。もちろん、高齢者も楽しめるようバリアフリーであることは必須
- ◇青少年、若者、高齢者など、これまで美術館になかなか来られていない新規の観客層の開拓。アピールできる企画の開発
- ◇県民の居場所となる空間(常設展を見学しなくても、その場所にいられるいごちの良さの提供⇒カフェ、アート図書室、習い事塾)
- 散歩中に立ち寄るなど、気軽に来られる感じがよい ○若者や多様な年齢層が楽しめる、触れる、感じられる、体験できるが重要な要素
- 美術館に気軽に足を運べるフラットな美術館、作品中心の世界ではなく、でも軽くない。その芸術精神を大事にする美術館を望んでいる
- あらゆる年齢層がそれぞれ楽しめる美術館が世界のトレンド。バリアフリーという選択肢になる
- ◇長野県は内外からの観光客も多いので、多言語による美術館案内、表示を制作
- ◇観光商品には、善光寺は入っているが、美術館は入っていないと思う。滞留時間の関係もあるが、立ち寄ってもらえるような観光商品に組み込んでもらえるような美術館にする
- ◇県、地域の観光施設、JRやJTとの連携(北陸新幹線の活用) ○世界から来る人に対する魅力はどうしたらよいかという観点も必要
- 観光者の視点が入っていないのが残念。観光者にどういうイメージを持ってもらうかは非常に重要
- 世界のトレンドも見据えての文化振興、また都市の魅力としての美術館の役割が世界的に大きく注目されている時代。県立美術館の役割は益々大切になっている

◎信州の美術教育を支援

子ども・若者

- ◇幼児教育の手助けの場
- ◇小中学生、高校生、大学生を対象とした教育プログラムを充実させること
- 小中学生の美術教室に加え、幼児から体験できる美術教室を加えるとよい。幼い子どもの頃の体験が大人になっての芸術への興味関心につながる
- ◇子どもたちの学びの場(子どもアトリエ)として、また作品作り愛好者の制作の空間として創造することの楽しさを味わえる美術館。デッサン室、版画室
- ◇子どもたちが、アートと出会える・触れあえる場
- 子どもたちの多くは、体験したり、参加したり、作品も参加して観たいと思っている
- ◇青少年、若者、高齢者など、これまで美術館になかなか来られていない新規の観客層の開拓。アピールできる企画の開発
- ◇信州つながるアート(人とアート、子どもとアート→未来へ、地域とアート→長野の文化、長野を訪れた人々とアート→世界へ)
- ◇新美術館でしか体験できない催し
- ◇豊かな提示・提案を通して創造の芽をひらき豊かさを享受できる美術館、 学べる美術館 体験できる美術館 意見を交わせる美術館
- ◇【観るだけの美術館から、つくることもできる美術館へ】
美術館の展示作品にインスピレーションを得て、做うワークショップを設け、その作品を展示する場をつくる。美術館の展示会場とワークショップ会場を行き来して、作業途中でも何度も会場に足を運べるようにする。美術館の作品は刺激の先生となる。東山魁夷氏の絵は一番の先生となるだろう
- ◇【観るだけの美術館から、さわることもできる美術館へ】
音楽は聴覚に依存している。美術は視覚と触覚に依存している。よって、作品に触れさせる。「絵や彫刻は見るもの」だけではなく、模造品を触らせ、五感に刺激を与える。「すばらしい作品は触らないもの」ではなく、「触って感覚を知るもの」とする。そこから、例えば、絵の具をはがしたら黒色の下に赤色が出てきた、絵の具のにおいや触感が分かる、キャンバスを叩いた時の音などを体感できる
- ◇【教育県信州と美術館を結びつける】
美術館を教材として児童・生徒・学生が使えるようにする。例えば、「本日は、△△中学校に部屋を貸し出す」、学生に刺激を与えるような「信州工房の設置」といように、小・中・高・大学生の美術授業を新美術館で行う
- ◇バウハウスのイメージを付加する。造形美術の教育的拠点として、バウハウスのような空間を付け加える。「バウハウス信州(仮称)」
- ◇地域内のホール、図書館、学校、福祉施設、保育園、幼稚園、病院など、公共サービスを行う施設と連携して、①教育の活性化、②福祉の向上、③地域観光の振興などの分野に役立つ機能をもつ美術館にする
- ◇あらゆる年齢層の県民に開かれた美術館であること。特に、美術館離れしている青少年や若者層も気軽に入れるような雰囲気のある建物であることが望ましい。もちろん、高齢者も楽しめるようバリアフリーであることは必須
- コンセプトにつながる共通のキーワード、子どもたちが学べる、遊べる、体験できる、表現の場に使える、人を育てる、そういう側面がありつつ、作品の展示機能もある。このエリアに一番フィットするコンセプトなしに、場所やサイズの想像がつかない

県民の活動発表の場

- ◇市民が活動できるスペースは必要
- よい企画展をやると同時に、貸出スペースも十分にほしい。美術館を開放することで、県民の美術館への理解と思いが構築されていく
- ◇鑑賞者としての利用だけでなく、活用し親しみの沸く参加型美術館
- ◇かかわり触れ合い、共に作りあげていく美術館

若手芸術家の支援

- ◇次世代のアーティストを育てられる学びの空間
- ◇若手芸術家の育成と支援
- ◇信州つながるアート(芸術家(さまざまな表現)と人々)
- ◇県内の伝統芸能、伝統工芸とのコラボ
- ◇県内の著名なイベントと連携して、美術館内でもミニ・コンサート、トークなどサテライト・イベントを実施

アーティスト・イン・レジデンス

- ◇周辺の民家を活用して、アーティスト・イン・レジデンスを創り上げ、発表の場として美術館を活用する(館内に可動式の小展示場)
- ◇長野県出身の若手アーティストのためのアーティスト・イン・レジデンスを取り入れる。例えば、小松美羽さんは県内の小学校でワークショップを開催している。県から委託すると本人にとってもふるさとのために貢献するというインセンティブにもなり話題性も生まれる。アウトリーチ活動と組み合わせてもよいのではないか
- アーティスト・イン・レジデンスを一部につくるとか、金沢の芸術村のようにアトリエや舞台があり、様々な創作やパフォーマンスの練習ができる場があってもよいのではないか
- プロのアーティストや市民の制作活動をライブで見る機能はぜひ残したい。アーティスト・イン・レジデンスの場合、宿泊施設の問題があるが、県は県立美術館に集約するより、地域ごとのレジデンスをソフト面で支援し、うまく表象するショーウィンドー的な展開をイメージしているため、大きなセンターをつくることについて、まだ議論しなくてよいだろうというところで止めた

◎信州の地域文化の多様性を活かす

地域文化の振興

- ◇長野県の豊かな自然、長野県の多様な歴史と文化
- ◇県内の伝統芸能、伝統工芸とのコラボ
- ◇歴史の縦軸、同時代の横軸 それぞれを視野にいれて長野県全域をカバーする
- ◇各地域の特性が異なる長野県域を繋ぐハブとなる。全県域の方が、私たちのものだと思う美術館
- ◇地域からのアプローチに重点を置き、地域に根ざした文化施設としての機能や役割を果たす美術館
- ◇信州つながるアート(長野県の各地域(北信・東信・中信・南信)の文化、歴史、伝統とアート)
- ◇長野県の文化的ハブとなること。国際性を高めること。アジア域内では、地域活性、観光客誘致などの要因から、魅力ある文化施設が生まれている
- ◇長野県、ひいては日本の文化的シンボルとなるようなもの(ハード、ソフト両面で)
- ◇長野県の美術を総括的に表象できること それが広域集客にもつながる

県内美術館のネットワーク

- ◇長野県内の美術館をリードしていく
- ◇県内美術館を画面で紹介(広域周遊)
- ◇県内美術館のコレクション情報が集積したアーカイブ機能
- ◇信州つながるアート(県内の各市町村の美術館と連携)
- 長野市内の美術館や県の歴史系博物館との関係、美術館同士、博物館同士のネットワークを考える必要がある
- 長野県には美術館が105館ある。県立美術館としての役割は重要。この役割を担うには、ハード面とソフト面、特に人材の面が重要

学芸員の支援

- ◇県内の美術館の人的(学芸員やエジュケーター等)、運営面でのネットワークのハブとなり、情報やノウハウ、研修などをシェアしていき、県内美術館のサービス、企画などの質を高めることを目指す
- ◇学芸員の研修環境に取り組む
- ◇学芸員を育成できるような大学的機能や美術アカデミーのような機能を持つことで、新美術館にレベルアップを目指して学芸員が集まってくるような仕組みがあればと思う
- 学芸の活動基盤に積極的に責任を持つことが必要。例えば、小さな美術館は書籍費も困っているだろうから、新美術館に学芸員のためのリサーチセンターを置いたらどうか

アーティスト・イン・レジデンス

- ◇レジデンス機能(館内に置くのではなく、近隣のレジデンスのネットワークの拠点になる)
- プロのアーティストや市民の制作活動をライブで見る機能はぜひ残したい。アーティスト・イン・レジデンスの場合、宿泊施設の問題があるが、県は県立美術館に集約するより、地域ごとのレジデンスをソフト面で支援し、うまく表象するショーウィンドー的な展開をイメージしているため、大きなセンターをつくることについて、まだ議論しなくてよいだろうというところで止めた

情報の収集・発信、調査・研究

- ◇内外に向けた広報
- ◇長野県に関する美術作品研究・収集
- ◇長野県域の美術状況の調査。ただし、無用な視察、リサーチは不要
- ◇収集、保存、展示、研究というMUSEUMの基礎機能が充実した館
- ◇ワクワク感を感じられるような企画や催し
- ◇東山魁夷氏のコレクションの活性化。より身近に感じられるような企画、ミュージアム・グッズを開発など。県内にある作品を描いた場所へのサイト・ビジット企画など

◎世界水準の作品展示と信州芸術の紹介

企画・展示

- ◇時代を先取りした企画展の発信元になる企画力ある美術館
- ◇ワクワク感を感じられるような企画や催し
- ◇東山魁夷氏のコレクションの活性化。より身近に感じられるような企画、ミュージアム・グッズを開発など。県内にある作品を描いた場所へのサイト・ビジット企画など
- ◇収蔵美術品の鑑賞、閲覧、(貸出)が出来るシステムを持つ美術館
- ◇収集、保存、展示、研究という MUSEUM の基礎機能が充実した館
- ◇収蔵品展示に場所を取り過ぎる美術館にしない
- ◇大型作品の展示を可能とし、搬入搬出・展示が円滑に出来るシステム環境がある美術館
- ◇グループ、団体展の展示(県民ギャラリー)と企画展の鑑賞が好印象で円滑に運営できる美術館
- ◇県のコレクションは無料ゾーン、企画展は有料ゾーンなど、作品の配置と入館料を工夫する。金沢 21 世紀美術館でも取り入れているが、欧米では一般的な考え方となっている
- ◇新しい展示方法での集客
- 全国巡回する主要な企画展が、東京、大阪以外の筆頭に長野に来るような美術館という戦略が必要。コレクションが足りない現実からすると非常に重要
- 子どもたちに長野の芸術・宝物に触れさせてみたいと感じられる面があると、多くの県民が芸術に触れる機会が増える
- 山々に囲まれた自然豊かな中から生まれた文化作品の常設展示をしてほしい

コレクション

- 長野県出身で世界的に有名な人の作品を買うかどうか。草間彌生の作品を積極的に収集するかどうかは避けられない論点。他の方の作品も同様
- 草間彌生は、松本市美術館の印象が強いからどうなのか。東山魁夷作品のアピールをもっと打ち出す企画がほしい
- 松澤宥はコンセプチュアル・アート、観念芸術の走りとして世界的な評価がある作家
- 近現代の作品をどう扱うのかという議論がある。東山魁夷との関係を含めて、専門家を入れて議論したほうがよい

県外美術館とのネットワーク

- ◇美術館の国際的なネットワークとも繋がること
- ◇金沢 21 世紀美術館と組んで相乗効果を高められるようなダイナミックなコンセプト
- 愛知や越後妻有のトリエンナーレの中間、金沢 21 世紀美術館と 20 世紀の代表的美術館である豊田市美術館の中間という地の利を意識して、アーティスト・イン・レジデンスなど、エリアに開かれたネットワークの拠点として考えると未来が開ける

進化・成長する美術館

- ◇育ち成長し続けていく美術館
- ◇柔軟に時代を捉えつつ、美術の概念そのものが変化することを受け止める美術館
- ◇美の力学を異分野にも発信できる新鮮な発想の構築できる美術館
- ◇過去のインデックス作りだけではなく、同時代につながる美術館
- 進化する美術館もよいのではないか。庭園は生き物なので変わっていく。美術館も機能が進化していく。次に来た時に変わっているかもしれない期待感が表現できると素晴らしい

◎信州と世界の交流ステージ ～国内外の人々が集い、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点～

文化振興

- ◇長野県、ひいては日本の文化的シンボルとなるようなもの（ハード、ソフト両面で）
- ◇長野県の文化的ハブとなること。国際性を高めること。アジア域内では、地域活性、観光客誘致などの要因から、魅力ある文化施設が生まれている
- 音楽など異業種と自由に交流・コラボできることはアーティストにやさしい。そのようなコンセプトを持ってよいのではないか
- 世界のトレンドも見据えての文化振興、また都市の魅力としての美術館の役割が世界的に大きく注目されている時代。県立美術館の役割は益々大切になっている
- この地域をどうやって長野の文化芸術発信のコンプレックスに生まれ変わらせるかという野心的な大きなアプローチでいきたい

観光振興

- ◇信州の自然美とアートが混在し、県民や外国人も含めた観光者が信州らしさを感じることができる空間
- ◇観光商品には、善光寺は入っているが、美術館は入っていないと思う。滞留時間の関係もあるが、立ち寄ってもらえるような、観光商品に組み込んでもらえるような美術館にする
- ◇県、地域の他の観光施設、JRやJTと連携（北陸新幹線の活用）
- ◇地域内のホール、図書館、学校、福祉施設、保育園、幼稚園、病院など、公共サービスを行う施設と連携して、①教育の活性化、②福祉の向上、③地域観光の振興などの分野に役立つ機能をもつ美術館にする
- ◇長野県は内外からの観光客も多いので、多言語による美術館案内、表示を制作
- ◇10年後、50年後、美術館がどうなっていくのか、維持管理費、入込客数など、建物の設計とは違う論理が出て来ることへの対応を考える
- ◇観光者への配慮は企画で勝負すべき。魅力ある企画を連発する美術館になれば、結果として観光スポットになる。観光バスを連ねて訪れる美術館は不要
- 観光者の視点が入っていないのが残念。観光者にどういうイメージを持ってもらうかは非常に重要
- 世界から来る人に対する魅力はどうしたらよいかという観点も必要
- 観光として魅力ある場所という観点から考えると、建築としての魅力も重要
- 広域観光資源としての施設をめざすのか、あるいは県内に視野を向けるのか、長野県を上手に表象できれば、広域観光資源につながる。まずは県民が受益者であり、その受益の形はコレクション収集。どういう外観のハードをつくり、どういう印象をつくるかよりも、まずはミュージアムの基礎機能として、どういう作品を集め、それを県全体にどう示すのかを練らないといけない
- 企画展を誘致する場所と空間という意味での競争力を考えないといけないという点では長野は難しい場所。公園を使いながら企画展を呼び、常設のものを決めて、ボリューム感を出していく設計能力とマーケティングの工夫が必要

県外美術館とのネットワーク

- ◇美術館の国際的なネットワークとも繋がること
- ◇金沢 21 世紀美術館と組んで相乗効果が高められるようなダイナミックなコンセプト
- 愛知や越後妻有のトリエンナーレの中間、金沢 21 世紀美術館と 20 世紀の代表的美術館である豊田市美術館の中間という地の利を意識して、アーティスト・イン・レジデンスなど、エリアに開かれたネットワークの拠点として考えると未来が開ける

◎その他

コレクション・展示

- ◇商業デザイン、工業デザイン、ファッションデザインなど各種デザイン分野が希薄になりがちな美術館のイメージを払拭したい
- 松本はサイトウ・キネンや歌舞伎など動く文化芸術、長野は東山魁夷や池田満寿夫の絵、静の文化芸術。書も含め展示の連続性のようなものをどのように考えたらよいのだろうか

施設整備

- ◇開館してからのことをイメージし、インフラ整備がゴールにならないように、お客様が集まってくる姿まで委員会で作った方が良いと思う
- ◇建物だけがメインで、集客力のない美術館にはしない
- ◇建築家のエゴが前面に出るような建造物は、その印象は時代と共に劣化する。奇抜で派手な美術館より、動線や採光や質感に配慮した機能的で使い勝手の良い品位ある美術館にしたい
- ◇①美術作品を扱う部分(刺激となる作品展示の場)と、②啓蒙する部分(ワークショップの場)は、まず美術館を見てからワークショップに来てもらうようにし、その後、それぞれの空間を往来してもらうように、①と②を連動させる
- ◇新美術館を、ルーブル美術館のように100年以上もつような永遠性を求めて建てるのか、あるいは50年後に建て替えるものをつくるのかで、お金のかけ方が変わってくると思う
- 建物で引きつけるのも一つの案。ユニークな長野、この美術館はこれだというものを決めることが大事
- できれば国際コンペにして、プロセスに世界の有名な建築家が関与することも大事。予算規模、時間、手間など賛否があると思うが、価値があると思う
- 建築会社プラス建築家で、与えられた予算の中でベストを尽くすデザインビルドのやり方もある。やるかやらないかを県の中で議論されているのか気になる
- ◇善光寺の駐車場の一部と、新美術館の駐車場を共有化し、善光寺からも足を運びやすくする
- 善光寺と新美術館の両方を訪れやすい道路や交通網(公共バス)、駐車場の整備が必要

運営

- 作り替えるのであれば、県民に親しまれそうな名前、名称が検討の対象になる
- ◇新美術館の器がつけられたら、レベルの高い美術館の中味(人材の育成、価値ある美術品の保管・管理・公開など)を学芸員によって育ててもらうようにする
- ハード面が充実すれば、それを上回る程のソフト面の充実が必要。知恵がある、想像力のある館長を踏めた学芸員が揃わないといけない
- 館長は、チームワークが取れて、地域の人と教育や企画などのプログラムを組めるような外に向けたコミュニケーションのできる優秀な人材にしたいといけない
- マネジメントの体制、企画力が非常に重要。金沢、富山、東京都の競争を考えると学芸能力にお金をかけるべき
- 長野県には美術館が105館ある。県立美術館としての役割は重要。この役割を担うには、ハード面とソフト面、特に人材の面が重要
- ◇学芸員の増員・ボランティアなどの育成
- ◇すぐにはできることは専門職員の確保、育成。館長、学芸課長、学芸員はすぐにも着手できるはず
- ◇質の高い学芸員を十分な人数確保すること(そのための予算の確保)
- ◇保存科学の概念と学芸員の資質の双方の参画ができる美術館にする(価値は分かるが修理は分からない、にならないように)
- ◇学芸員は、情報交換を活発にすることを目指してほしい ◇学芸員が安心安全の中で仕事ができる環境づくりをする
- ◇学芸員は外国語で海外へ発信する力をつける
- ◇表現分野は多岐にわたるが、音楽分野は過大になり過ぎないことが肝要
- ◇カフェは、県出身や県内で活躍しているパティシエ等とコラボして、県産の果物等を活用したメニューや企画展と連動したメニューを開発
- 既存コレクション、企画展、ワークショップ、学校との連携という役割にどう取り組むのか、様々な観点から運営、機能をどう充実させるか検討が必要
- ◇竣工後も美術館が良い方向で推移していくように考えることも、全体のスケジュールの一部だと思う。オープン後にも目を向ける必要がある
- コレクションや学芸員にどれ位の予算を割くのか、オペレーションコストも含めてトータルで財務は考えておく必要がある
- 指定管理やPFIなどの経営は、他県の事例を調査し、たたき台の案を出してもらったほうがよい。県が選択肢を出さないとゼロベースで議論してもまとまらない

その他

- ◇県都・長野市にオリジナルの新美術館をつくる意義が充たされるものに。民間から譲り受けた現美術館は制約が多かった。美術館建設の理念づくりから構築し、理想形をつくらうとする新美術館は、ねがいの着地点でありたい
- ◇コンセプトに対するヒエラルキーがあると思う。絶対にやらなければいけないこと(例:空調、防虫、安心安全など)と、余裕があったらやること(例:クラフトができるコーナーがあるなど)の中で、何を特化するかを見極めれば良いと思う
- ◇美術館に求める機能を、首長も含めて「県」レベルで意思統一すること
- 県民意見を聞いても役立つものはなかなか出てこないが、やっばいいけないことのリストは出るので非常に大事
- 生活している市民との関係を上手につくらないといけない。県民に理解してもらってアピールが必要

信濃美術館整備に関する関係者の主な意見 (1/2)

検討項目		信濃美術館職員アンケート (H27.4)	信濃美術館協議会 (H27.5.25)	美術館関係者等との意見交換会 (H27.6.7)	北信美術会 (H27.8.21、10.20)	長野A&D研究会 (H27.10.8)
1	利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○身障者用設備(トイレ、EV等)の充実 ○展示室以外の充実(図書コーナー、子どもの広場、会議室等) ○ホール、ステージ等のイベントやパフォーマンスができるスペースの確保 ○授乳室等の設置 ○作品管理の冷房を活かしたクールシェアの場の提供 ○十分なスペースの駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ○県民ギャラリー的なものと新しいジョイント関係を構築すべき ○県民ギャラリー的スペースを県内各地の表現者の交流の場とする ○年配者を対象とした「友の会」の設置が必要 ○公園の延長のような美術館敷地内に無料で鑑賞・体験できる作品がほしい ○南信の県民も誇りを持てる施設(南北のかけ橋)になってほしい ○美術館の教育的役割の充実、強化 ○調査学習や制作研修のできる学習室の設置が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術に関心のない学生も、イベントや講演会、上映会等があれば来館する ○いけばな展等の開催可能な施設にしてほしい ○小中学生が積極的に作品に触れていく場所、作品鑑賞の機会をつくってほしい ○若者が訪れるためにはアーカイブや案内看板の整備等が必要 ○カフェレストランの充実。粉物食など信州らしい食文化や有名シェフはどうか ○県民ギャラリーなど利用しやすい仕組みづくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○北信展、県展ができる規模を確保してほしい ○常設、企画展スペースとは分離させた貸館スペースの確保 ○図書室、メディアルーム等のある多目的に使える建物にする ○個展、グループ展ができること。仕切り可能な構造にしてほしい ○高齢者、障がい者に配慮した建物にしてほしい ○美術団体は展覧会場確保で苦勞している。約900mの壁面が必要 	---
2	管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ○プロパー職員の増員、運営費増による安定した運営と調査研究の充実 ○バックヤード(収蔵庫等)の充実や展示室の安全性 ○文献調査ができる研究書籍の充実 ○文化財レスキューのための施設と専門職員の確保 ○信州の文化芸術(県内美術館、信州ゆかりの作家など)の情報の管理・保全機能が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○館長、学芸員の専門性が重要、育てる環境が必要 ○学芸員の補充、充実が必要 ○文化芸術の発展のため、着実に計画・実行する人材が不可欠 ○展覧会を招致する館長・学芸員の専門性と出品交渉力が必要 ○所蔵作品や関連作家の研究を展覧会に反映させる ○県内の美術館の中心的な働きを期待する ○世界の作家のネットワークの中心として機能する ○信濃美術館の抜本的、根本的改革を期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内美術館の多くは1～2名の学芸員で全てを行っているため、各自の行う勉強も限られる ○県立の学芸員に頼りたい気持ちがある。県内学芸員のボトムアップを希望する ○開館時に3名の学芸員では大変なので、人材を今から育成すべき ○学芸員を大切に、人に重きを置いた整備を望む 	<ul style="list-style-type: none"> ○学芸員の充実は極めて重要であるが、指定管理制度も含めて、運営主体をどうするのか要検討である ○美術館は、人によって活かされる 	---
3	建物・立地	<ul style="list-style-type: none"> ○平屋、2階以下の低層の建物が望ましい ○メディアアートなど現代の様々な作品に対応可能な施設 ○善光寺や公園から入りやすいルートの設定 ○周辺の景観を活かした、来訪者をとり込む施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○善光寺から城山公園までの動線をいかに引っ張るかが大切 ○東山魁夷の絵画作品のような庭園を造ってはどうか ○景観を損ねず、親しまれ、門前町に似合うデザインにしてほしい ○善光寺につながる公園的な緑地の中を周遊して巡る低い建物が理想 	<ul style="list-style-type: none"> ○本館は建築的に優れており、機能回復して残してほしい ○箱物だけをつくる時代ではない。地域全体を美術館とする「場」づくりをしてほしい ○善光寺の隣りであり、ハードは精神性の高いものが望ましい ○美術館の外側も美術館。山や川、ロックライミングの壁等あればファミリー層が訪れる ○善光寺から美術館が見えず、植栽も含めたデザインが必要 ○都市計画として、道路、駐車場、公園施設も含めたランドデザインを考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園と一体化した美術館にすること ○周りの山々やその風景も含めて鑑賞できる美術館としてほしい ○自然の美は誰でも受け入れやすい原点のようなもの 	○新美術館と公園周辺整備による常設の集客施設が生まれることを期待
4	広域集客	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の基本的機能は3K(鑑賞・交流・観光) ○門前町長野市とのまちづくり等での連携・協調 ○国立美術館周辺のようなイベントによる賑わい創出、観光振興 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の核は作品。世界的な視点の先見性をもったコレクションの構築を進めるべき ○東山魁夷がどれだけ魅力があるのか検証すべき ○年代を越え先進的で若々しくエネルギーのある発信と企画に期待 ○広報力を強化して、全国に対して発信していく 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪れた後、庭園、コレクションなど何か心に残るものを考えてほしい ○常設展示を中心に考え、貸与スペースを大きくすべき ○中央の公募展が巡回できる大型施設が望ましい ○ファインアートだけでなくデザインの視点も考えてほしい ○テーマパーク的なものだけでは疑問。本物をみせる施設であるべき ○信州の美しい自然、気候、風土、東山コレクションで十分でないか ○美術は生きていることを伝え現在活躍している作家にスポットをあてるべき ○公民館活動とかぶる部分がある。企画の棲み分けを考えるべき ○大人がリードしていく大人の文化の創出を考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○中央の公募展の巡回展ができるようにしてほしい ○郷土作家の作品収蔵と展示 ○世界的に有名な作家の作品収蔵と展示 ○美術文化のシンボルの存在 ○世界を視野に、国内外の観光客をどう誘客するか 	○新美術館に県内の地場産業のあらゆる産業デザインに役立つ「デザインミュージアム」を誘致したい

信濃美術館整備に関する関係者の主な意見（2/2）

検討項目		高校生アンケート・意見交換会 (H27.5～6)	中学生アンケート (H27.5～6) ※3年生分のみ	意見公募 (H27.7.6～8.21)	
1	利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○堅苦しくなく楽しい雰囲気のある美術館 ○小さな子どもも楽しめる子どもの遊び場が必要 ○幅広い年齢層、どんな国の人も楽しめる、椅子やベンチを多くする ○学習室などがあれば気軽に立ち寄れる ○本格的なレストランがほしい ○入場料を無料にしてほしい ○若者のアートプロジェクトを支援してくれる美術館 ○いろいろな分野の知識を得られる美術館 ○若い芸術家を知ることができる美術館 ○展示室を多くしてほしい。(小さくともよい) ○展示を一周りで見ることでできる展示室の配置してほしい ○庭にもアートの展示があれば楽しい ○自由に触ったりできる美術作品の展示 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな体験ができて楽しい場所、肌など五感で感じることもできる ○芸術家が絵を描いているところを見ることができるといい美術館 ○広くて、親やすい美術館 ○作品を身近に感じることのできる美術館 ○一日中いても飽きない充実した設備や企画内容がほしい ○幼児から老人まで気軽に楽しめる、誰でも行きやすい美術館 ○静かで落ち着いた居心地の良い美術館 ○カフェ、レストランなどがあり、きれいな美術館 ○トイレがきれいで清潔な美術館 ○外にもアートがあり、明るい感じにしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○金沢 21 世紀美術館のように、美術館の概念を取り払い、気軽にだれでも立ち寄れる美術館が必要 ○開かれた美術館をつくるのが重要 ○ワークショップや講演を行うアトリエ(外から見える) ○子どもたちが体験し、学べるワークショップが大切 ○オシャレでオリジナルなカフェ、レストランが必要 ○カフェやレストランが近くにあることで美術に関心を持つ疑問 ○館内に無料で鑑賞や体験ができるスペース、周辺にはゴロゴロしたくなる場所が必要 ○視覚障害者にも楽しめる工夫を願う。①点字リーフレット、②音声ガイド、③3Dプリンターを使った企画展、④トイレの音声案内、⑤HP、⑥職員教育、⑦ボランティアの養成・常駐等 ○託児施設の設置 ○夜9時まで開館する夜の美術館 ○気軽に寄れる勉強作業スペースの設置 ○善光寺と信州の美伝承館、産業デザイン館、衣食住デザイン館の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○「県民がいかにかに沢山利用できるか」が大切。「県民ギャラリー」は重要な要素 ○世界的に有名なキュレーターを招いて、企画、展示、運用など一流のものにしてほしい。芸術家の創作活動スペースを設け、見学ができるようにする ○常時、一般公開しているアーティストの制作場が必要 ○大学と連携し、芸術家志望の学生が発表できる場を作ってほしい
2	管理・運営	---	---	<ul style="list-style-type: none"> ○アートを気軽に感じられるもの。ロゴやサイン計画 ○これらが実現されたらすごい、主導する機関は何処になるのか？学芸員の守備範囲には限界がある” ○国内外の美術館と交流協定を結び人材交流の活発化 ○海外要人を信濃美術館の迎賓館で対応し、外国語が堪能な県職員を配置 ○周辺環境と美術館が最高のランドスケープをつくり、人が集うようにするため、有名建築家審査員のもと、コンペで設計者を選ぶべき 	
3	建物・立地	<ul style="list-style-type: none"> ○建物自体が芸術となる美術館 ○和風な善光寺となじむもの。和の景観の建物 ○建物を見て興味がわく、目を引く外館 ○デザイン性のある明るいお洒落な美術館 ○絵の展示だけでなく、雰囲気もほしい ○入りやすい雰囲気のある明るい美術館 ○庭をつくってほしい、自然あふれる美術館 ○環境にやさしい美術館 	<ul style="list-style-type: none"> ○外からみて面白いデザイン、人目を引くデザイン ○建物がきれいで開放感のあるデザイン ○建物自体を作品にしてほしい、建物だけでも芸術的なもの ○見ただけで「ここに行きたい」と思う建物 ○植物がたくさんある美術館、美しい庭のある美術館 ○活気のない長野に新たなイベント施設を作るつもりでやってほしい ○長野にしかない誇れる施設を作してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○林昌二氏の建物自体は少し弱い気がする ○長野駅と善光寺をつなぐ施設を、中間地点（門前ぶらざ）を再開発し建設すべき ○善光寺下駅や中央通りからの動線明示や誘客が必要 ○駅前エリアと善光寺エリアの分断が問題。トイゴウエストやセントラルスクエア等の中間エリアに、分館を設置すべき ○展示室や収蔵庫のスペースが狭く、バリアフリー化も進んでいないので建替えが必要 ○「まち」の賑わい創出や、周辺と一体化した景観形成・街づくりを美術館事業の目玉としているのか、それとも美術館の文化芸術活動によって結果的につくられていくものか ○旧蔵春閣辺りまで拡張して、市内を一望できる施設とする 	<ul style="list-style-type: none"> ○善光寺からの回遊性を考慮し、無散水施設を有する遊歩道を整備する ○市内循環バスぐるりん号のルートに組み入れる ○景観と調和させる必要があるが、善光寺とは調和させる必要なし。いつまでも善光寺に頼ってはいけけない ○世界遺産登録を目指している「善光寺と門前町」ゾーンに隣接している ので、世界遺産登録とリンクして、歴史館の分館とする ○建物と周辺の雰囲気に常に観光名所になるような集客力が必要 ○長野市と協力し、信濃美術館とその周辺一帯を整備してほしい
4	広域集客	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもから大人まで楽しめる様々なジャンルの展示 	<ul style="list-style-type: none"> ○もっと宣伝して多くの人々が訪れるようにしてほしい ○たくさんの人に来てもらうため駐車場を大きくしてほしい ○絵の展示位置をもう少し低くしてほしい ○いろいろな分野の美術系の作品を置いてほしい ○有名な物や誰でも楽しめるものの展示 ○いろいろな展示会、体験があればよい 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンセプトづくりにより時間をかけるべき ○明確なビジョン、コンセプトを持った美術館となしてほしい ○「現代を生きて変化する美術館」をコンセプトに加えてほしい。美術館は「静的」なものだけでなく、「動的」なものでありたい ○善光寺に来た人を美術館に呼び込むため、美術館の賑わいを外へ発信できる仕組みが必要 ○屋外広場では、クラフトフェアを開催し、地域の賑わいを創出する ○アーティスト・イン・レジデンス事業は、他の地域の活性化の方途としてとらえたほうがよい ○松本市美術館と連携してほしい。東西南北に割れがちなイメージのある長野県で、展示協力して知的文化芸術県をめざしてほしい ○質の高い保存環境と十分なスペースを希望する ○県内の他の美術館とのネットワーク拠点となり、戦略的に国内外に発信 ○新美術館を飯山市に新設。雪を素材とした作品を制作する、世界で唯一の美術館とする。越後妻有トリエンナーレの玄関口とする ○産業活性化に寄与する美術・デザインの振興 ○コレクションは、県の特徴を持たせたものを収集すべき ○評価の定まらない作品を収集することも、無名作家を掘り出す意味があるが、リスクも覚悟しなければならない 	